



森林浴をしながら青森ヒバをPR
(詳細は4ページで紹介)

トピック

特集

「松くい虫・ナラ枯れ被害防除の取組」

森林整備課

「『森林計画の策定に係る現地検討会』を開催」

計画課

美しい森林づくり (地域発案システムの取組)

「眺望山自然休養林から『青森ヒバ』を発信」

青森森林管理署

我が署の隠れた名所

「南蔵王『水芭蕉の森・どうだんの森』」

仙台森林管理署





特集 コーナー

松くい虫・ナラ枯れ
被害防除の取組

【被害の現状】

当局管内の松くい虫被害は、太平洋側で三陸中部森林管理署管内（陸前高田市）、内陸部では岩手南部森林管理署管内（花巻市）、日本海側では米代西部森林管理署管内（能代

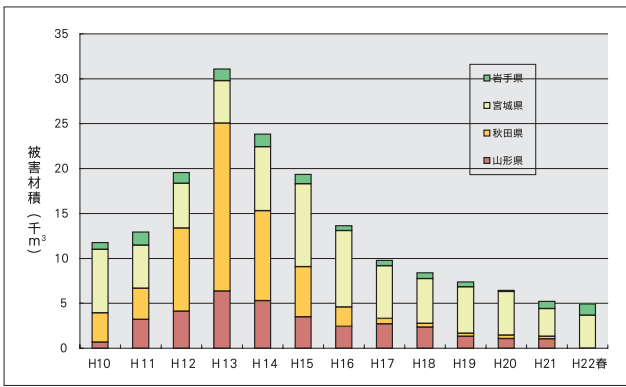


図1 県別松くい虫被害・駆除量（材積）の推移（東北森林管理局管内国有林）

市）まで北上しています。その被害量は、平成十三年度の約三万m³をピークに減少傾向にあり、昨年はピーク時の約十七%になっています（図1）。

一方、ナラ枯れ被害は、平成十五年に山形県で発生して以来、日本海側を中心に、山形県全域で発生し拡大傾向にあり、平成二十年に秋田県湯沢市（山形県境付近）で被害が確認され、さらに昨年は、宮城県大崎市や七ヶ宿町、秋田県由利本庄市において被害が確認されました。

【被害のメカニズム】

松くい虫被害の直接の原因は、マツノザイセンチュウという線虫（体長1mm程度）ですが、自力では他のマツに移動することは出来ず、マツノザイセンチュウと、運び屋と呼ばれるマツノマダラカミキリとの共生関係が松くい虫被害の拡大の原因となっています。

一方、ナラ枯れ被害は、カシノナ

ガキクイムシ（体長四・五mm程度）が、健全なナラ類の幹に穿孔する際にナラ枯れの病原菌であるナラ菌を木の中に持ち込み、そのナラ菌が増殖し水を吸い上げる管を詰まらせることが原因となっています。

【防除の取組】

松くい虫被害防除については、従来から、①羽化脱出直後のカミキリを駆除する地上散布②枯死したマツを伐倒し、薬剤によるくん蒸、焼却等を行う伐倒駆除③侵入するマツノザイセンチュウの増殖を防ぐため健康なマツに薬剤を注入する樹幹注入を継続して実施しております。また、

青森・秋田両県と連携・協力し、県境付近の青森県側に防除帯を設置しており、空と地上からの監視の強化に努めるとともに、毎年五月には、地元ボランティアの皆さんと連携して、ブナや山桜などの植樹を行っています。



写真1 被害木への薬剤注入

ナラ枯れ被害防除については、被害木の幹にドリルで穴をあけ薬剤を注入する方法（写真1）で

主な駆除を行っています。すべての被害木を処理することは極めて難しい現状にあります。このため、被害先端地域では、被害拡大防止のため、被害木の徹底駆除を行うとともに、被害まん延地域においては、自然景観の維持・保全を求められている国有林等を「重点的に防除を行うナラ林」と位置付け、効果的、効率的な防除に努めています。また、山形県と協同で面的な防除対策を早期に実用化するため、「合成フェロモン」（誘引剤）を用いたカシノナガキクイムシの大量捕殺手法（写真2）の確立の実用化に向け取り組んでいるところです。

当局では、引き続き、より効果的・効果的な被害対策を推進するため、被害の先端地域において、ハザードマップを活用し、重点的に巡視を行い被害の早期発見に努めるとともに、県・地元自治体ならびにボランティア団体等との連携を強化し、適切に防除事業を実施していきたいと考えています。



写真2 誘引剤を使用した大量捕殺
上段：おとり木 下段：おとり丸太

特集 コーナー

「森林計画の策定に係る
現地検討会」を開催



七月一日（木）～二日（金）にかけて、仙台森林管理署管内において、東青・北上川上流・宮城南部・子吉川森林計画区の計画策定に先立ち『森林計画の策定に係る現地検討会』を開催しました。

これは、学識経験者や公募者からなる森林計画の検討委員から、現地視察や会議の場を通じてご意見をいただくことで、より国民の意見を反映した森林計画を策定するために行うものです。

今回の現地検討会には、十名の森林計画検討委員に、東北森林管理局長、次長、関係森林管理署長など当局関係者を併せた総勢四十七名の参加を得て開催しました。

初日の現地視察は、梅雨のさなかの開催にもかかわらず好天に恵まれ、今年度の主要テーマである『都市近郊林における森林づくり』及び『森林共同施業団地の設定』の各々



「里山ねっと赤坂」代表から説明を受ける参加者

の現場における取組例として、仙台市の蒲沢山国有林内『蒲沢里山体験の森』と白石市嶽家老国有林内の『森林共同施業団地』設定予定箇所を、それぞれ視察しました。

『蒲沢里山体験の森』では、近隣住民の方々からなるNPO法人「里山ねっと赤坂」と仙台森林管理署との間に『遊々の森』協定を締結し、

里山整備のほか、主に近隣の小学生を対象とする自然観察会、林業体験等の活動を行っています。現地では『里山ねっと赤坂』の代表から、協定締結の経緯や活動内容についてご説明いただきました。その後、『森林共同施業団地』の設定予定箇所に移動し、仙台森林管理署長より概要説明を受け、各委員は国有林に隣接する民有地と団地を設定し、育林・伐採コストを下げるために共同で作業道を開設する予定地を概観しました。いずれの視察地でも、委員の方から多くのご質問・ご意見をいただきました。

二日目の会議では、前日の視察を踏まえた意見交換を行いました。委員の方々からは『蒲沢里山体験の森』について意義のある活動だとの評価をいただいた一方、『遊々の森』など国民参加の森林づくり推進のための各制度について、目指す森林の姿や整備の方法論の違いをきちんと議論し、職員一人一人が把握しておくことが大切であること、「参加者の募集や、現在行われている活動のPRなどをもっと積極的に行うべきであること」などのご意見をいただきました。また、『森林共同施業団地の設定』については、「現状では共同施業の協定を結ぶことが難しい小口民有林も参加できるように制度に



貴重なご意見をいただいた会議の様子

すること」「路網の共有だけでなく、計画や施業の一体化も検討するべきであること」などが今後の課題として挙げられました。

さらに、経済成長の柱の一つとして森林・林業を位置づけ、木材自給率五十%を目指す政策を実現する上で、国有林とその技術者に対する期待が大きくなっていることから、「国有林技術者は、森林の公益的機能発揮と効率の良い木材生産の両立に取り組み、国民から信頼されるスキルを身につけなければならぬ」とのご意見もいただきました。

当局においては、二日間にわたる検討会の中で委員の皆様からいただいたご意見等から、今後の課題等を再認識したところであり、今年度の計画策定作業にあたっては、これらを踏まえてさらに検討を深めて参りたいと考えています。

美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの取組)

眺望山自然休養林から 『青森ヒバ』を発信

青森森林管理署

当署では、地域の特産樹種「青森ヒバ」のより幅広い利用や資源育成を推進するため、関係機関やボランティア団体等と連携しながら様々な取組を行っています。

○イベント等によるPR活動について

当署管内の眺望山自然休養林はヒバの美林が間近に観察でき、青森市中心

部から比較的近いことから、市民の方々に青森ヒバを理解していただく場として活用することとしています。このため、一般利用者の利便性向上に向け、老朽化した施設の整備やガイドなどの情報提供活動等に努めています。昨年度、山頂展望台等を新しくしたことから、次のPRイベントを実施しました。

①展望台等落成記念式典

四月二十八日(水)、眺望山自然休養林の山頂において、展望台、ソーラーバイオトイレ等の落成記念式典を開催しました。式典への参加者は、管内の市町村や眺望山自然休養林での森林整備活動を行っているボランティア団体等約六十名で、眺望山・梵珠山自然休養林保護管理協議会会長の鹿内博青森市長外による丸太カッターで完成を祝いました。式典当日は、参加者と歩道を散策し、施設の整備状況や青森ヒバのPRを行いました。この式典は、地元



展望台等落成記念式典

新聞にも大きく取り上げられ、問い合わせも多く寄せられました。



完成した山頂展望台

②展望台等落成記念イベント

五月二十九日(土)、眺望山自然休養林において、展望台等落成記念イベント「新緑のヒバ林で森林浴」を、眺望山・梵珠山自然休養林保護管理協議会、三陸森の会、当署の三者による共同主催で開催しました。参加者は、一般公募の応募者、緑のオーナー、国有林モニタール、ヒノキアスナロ緑の少年団の皆様で、約百人の参加がありました。三陸森の会会員等の案内で森林浴を行い、青森ヒバの特性などについてPRしました。一般参加者からは「こんな近くにこんな素晴らしい森林があるとは」、「また来たい」との発言も聞かれ、反応は上々でした。

③市民センターでのPR展示

眺望山自然休養林を地域の皆様知っていただくため、休養林近在の市民センターに三陸森の会との共同で休養林のPRのための展示を行いました。期間は4月中旬から7月末までで、パネル二枚分のスペース一杯に写真をふんだんに用いて視覚に訴えるものとなりました。

がったと考えています。



市民センターでの展示

○ボランティア活動等を通じたPR活動について

眺望山自然休養林の利便性向上については、数多くのOBの方々やボランティアの皆様の支援を受けており、その一部を紹介します。

森林ボランティア青森は、ツリーイングの特殊技術を用いて、眺望山自然休養林の遊歩道の枯枝除去を平成二十年から毎年継続して実施しています。

青森林業土木協会は、持ち前の土木技術を生かし、休養林内の西口、東口遊歩道のコーリングソイルによるバリアフリー化等を平成十八年から毎年実施しています。

三陸森の会は、「森の案内人」活動として、昨年より一般利用者に情報提供を行う活動を行っています。

以上が今日までの取組ですが、「青森ヒバ」のPR活動は、眺望山自然休養林から積極的に実施していきますので、変身しつつある眺望山自然休養林に是非おいでください。

イベントがマスコミに取り上げられたことや、市民センターでの展示等により、入林者も多くなり、一定の成果がある

各地からの便り

下北森林管理署

「フォレストボランティアと不法投棄防止合同パトロール・清掃活動」を実施

七月八日（木）、むつ市大畑町奥薬研周辺、むつ市川内町せせらぎ公園周辺及び大間町奥戸林道外の三箇所において、不法投棄防止一斉パトロール及びクリーン活動をフォレストボランティア員二十三名の参加を得て実施しました。



パトロール出発前の参加者

参加者は、森林パトロール員の帽子を着用して、ゴミ袋と火バサミを片手に県道・広場・遊歩道等を巡回し、タバコの吸い殻、空き缶、空きビンなどを拾いました。

なかには、大きな鍋が捨てら

れていて一同唾然としましたが、少しでも綺麗にしようとする参加者一人ひとりがゴミ収集に汗を流していました。

当署では、毎年、合同パトロールと清掃活動を実施しています。が、このような活動を通して、一般の方にも森林環境美化への理解が深まっていくものと期待しています。

岩手北部森林管理署

「米代川上中流域植樹祭及び治山工事見学会」を開催

六月二十五日（金）、岩手県八幡平市天狗森国有林内において、岩手県の米代川漁協、秋田県の米代川三漁協（鹿角市、大館市、比内）、米代東部森林管理署及び当署の共催により、岩手県と秋田県の県境を越えて流れる米代川の清流を守ることに、地域住民への国有林における治山事業の普及・啓発を目的として「米代川上中流域植樹祭」及びネデノ沢治山工事箇所現地見学会を開催しました。

植樹には両県の漁協関係者、八幡平市立田山小学校五、六年



ネデノ沢治山工事概況の説明

生の児童十四名、地域住民及び森林管理署職員の約百四十名の参加の下で盛大に開催されました。

最初に田山小学校の児童による「緑の誓い」の宣言の後、ネデノ沢治山工事箇所周辺にミズナラ七十本、オオヤマザクラ六十本を植栽しました。

植樹祭は、米代川の清流を守ることの重要性を認識するとともに、森林の持つ機能の高揚を図ることを目的として平成十四年より秋田県側と岩手県側で交互に開催しており、今年度で九回目を迎えました。

また、ネデノ沢治山工事は平成十九年九月に発生した豪雨により、溪床内に堆積していた不安定土砂が保全対象地域へ流出し被害を与えたことから、下流

域の住民の安全、安心な暮らしを守ることを目的として、コンクリート治山ダム二基を設置したものです。間伐材を利用した木製の型枠を用いた治山ダムであり、間伐材の利用と国有林における防災機能の役割等について地域住民の皆さんへ理解していた、たく機会ともなり、梅雨の台風の晴天天下で盛会裏に終了することができました。



植樹する参加者

宮城北部森林管理署

「ボランティア清掃活動」

社団法人青森林業土木協会宮城支部は、同協会創立三十周年及び上部団体である社団法人日



不法投棄されたゴミの回収作業

本林業土木連合協会創立五十周年の記念事業として、七月八日（木）、南三陸金華山国定公園内の牡鹿半島中央部を南北に貫く、「牡鹿コバルトライン」沿いの国有林内でボランティア清掃活動を行いました。

当日は梅雨の最中というのに天候に恵まれ、蒸し暑さがあったものの作業日和となり、同支部会員及び当署職員の総勢五十八人が、遠藤支部長と署長の挨拶の後、一斉に作業に取り掛かりました。

林内に不法投棄された冷蔵庫、テレビ、古タイヤなど、傾斜地も何のその、土木関係者とあつてユニックなどの自前の機械を活用し、二トトラック約九台分の大量のゴミを運び出し、

宮城県、石巻市の協力を得て処分しました。

今回の清掃活動により、常習的となりつつある不法投棄箇所を解消したことなどが、今後のゴミの不法投棄撲滅の第一歩となり、牡鹿半島の稜線を走るコバルトラインがより爽快なドライブを楽しめるルートとなることを念願し、ボランティア清掃活動を終了しました。



参加者による記念撮影

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

「自然再生実施協議会」

を開催

六月二日（水）、第四回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯

の森）自然再生実施協議会を開催しました。当日は最上川スキーマ跡地において植生の回復状況の確認を行い、その後、戸沢村役場で協議会を実施しました。

スキーマ跡地では、「土湯の森」づくり解説用として設置した看板の説明、植付区・刈払区（天然木発生区の刈払い）・自然推移ゾーン等の各箇所成長状況、動物被害状況について確認を行いました。

協議会の中では、①平成二十



スキーマ跡地での説明

一年度「土湯の森」づくり事業報告、②平成二十二年度「土湯の森」づくり事業計画、③みどり環境交付金事業について、④参加者募集について説明を行い

ました。

意見交換の中では、委員の方々から、特に植付区の枯れた木の補植の必要性が指摘されたほか、「この取組は自然再生活動と森林環境教育を組み合わせて実施しているのが特徴であり、学校側との調整は難しいが、多くの生徒が参加できるように幼稚園・高校生にも声かけが必要ではないか。」「体験型で一発で終わるのは魅力がないためであり、継続性のある内容で実施することが重要である。」との発言がありました。また、戸沢村からは観光客が自然再生活動に参加できないか検討したいなどの意見が出されました。

今年度の事業では、森林再生ゾーンの刈払い、植生及びセンサーカメラを活用した動物相のモニタリング調査を中心に、状況に応じて、ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験等を実施して行く予定です。事務局としても委員の方々の意見を踏まえ、自然再生活動に多くの参加が得られるよう創意工夫し、広く一般市民・児童・学生等に自然再生に対する理解、協力が得られるよう活動を行っていきたいと考えています。





指導普及課

「中通小学校との
環境美化の集い」を実施

七月八日（木）、当局に隣接する秋田市立中通小学校との協働による「環境美化の集い」を実施しました。この集いは、学校緑化活動の一環として花や土にふれてもらい、豊かな心を育むことを目的に木製のプランターに花を植えて展示するもので、中通小学校四年生児童を対象に平成十四年度から毎年実施しています。



プレートを立てたら完成です

当日は梅雨の晴れ間のよい天気に恵まれ、児童三十六名と教師三名、当局職員二十八名が参加し、職員から植え方の説明を受けた後、子供達は一人二つの

プランターを受け持ち、植栽を開始しました。

花を植えるのは初めてという子供も多くいましたが、先生や職員の手を借りながら一生懸命丁寧に植え、秋田スギの間伐材を利用して製作した七十五個のプランターに、サルビア、ペチュニア、日々草の花百五十本を咲かせました。その後、自分で受け持ったプランターに自分の名前を書いたプレートを立てた子供達は、みんなで力を合わせて小学校と局の間の道路沿いと局正面の道路沿いに運び、展示し、自分の名前が標示されたプランターが街をきれいに彩る様子を満足そうに眺めていました。

このイベントは地域の方々も心待ちにしており、展示した花々は道行く人の目を楽しませています。



展示されたプランター

ミニコラム



へえ〜
そうなんだ

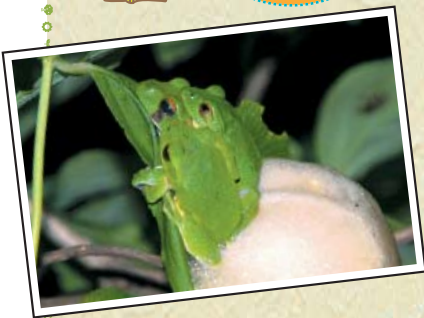
山のカエル

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長

青山 一郎

山のカエルは産卵期以外は水辺に寄らないのが主流。代表格がヒキガエルで、カエルにしては乾燥に強く水辺とは無縁の所で生活している。東北の在来種では最大のカエルだが、幼生（オタマジャクシ）からカエルになったばかりには逆に最小。早い上陸は東の間の水辺も利用可能な戦略。5mmほどの子ガエルが夏には十倍近くに成長。▲ヤマアカガエルは、春先の林道の水たまりにも無鉄砲に産卵する。直射日光の下、幼生は水たまりが干上がるのと競うように急速に成長するが、カエルになれずに干物になる奴も多い分、卵の数は多い。産卵期以外はタゴと同じように森で暮らす。▲タゴガエルの林床を跳ねている姿は（若干小太りだが）ヤマアカとほぼ同じ。ところが産卵行動には雲泥の差があり、伏流水のある土の中などに卵を産む。堅実な場所に少なく産む戦略。春先、土の中でクッククツと鳴いているのはこいつ。

▲モリアオガエルが水辺の樹上に産卵するのは有名だが、産卵を終えるとやはり森の中の樹上で暮らす。幹に着いているときは灰褐色に色を変え木のコブになりきっている。▲カジカガエルは、渓流で涼やかに鳴く、河の鹿に喩えた鳴き声が名の由来。この中で唯一水辺の蛙。声はよく通るのにあまり目に付かないが、目をこらすと川面に出た岩の上に小石が載っているように見える。こんな色でもアオガエルの仲間では立派な吸盤があり、小動物には大きな壁である側溝なども難なく登る。



モリアオガエル



アズマヒキガエル



ヤマアカガエル



タゴガエル



カジカガエル



イベント情報

E V E N T

もり 「仁別の森林の写真展」

期 日

平成22年7月23日(金曜日)～
平成22年11月3日(水曜日)

開催
場所

秋田市 仁別森林博物館

開催
内容

- ①仁別の森林、動植物、森林と人のふれあいなど仁別国民の森の魅力を撮影した写真を募集、博物館内に展示します。
- ②一般投票(仁別森林博物館来館者)と主催者投票を実施し、選ばれた作品に記念品を贈呈します。

写真の
募集

仁別国民の森内で小学生が撮影した写真を募集しています。

写真の
種類

4切り(254mm×304mm)
カラー、白黒は問いません。

申込
方法

現像した写真を郵送するか、写真データをメールで送信してください。

申込
期間

平成22年7月23日(金曜日)～
平成22年10月4日(月曜日)

*参加申込・お問い合わせ先

〒010-8550
東北森林管理局指導普及課企画係
住 所：秋田市中通5丁目9-16
電 話：018-836-2211
FAX：018-836-2012
E-mail t_shidou@rinya.maff.go.jp



新任者略歴紹介

7月30日付及び8月1日付

● 東北森林管理局長 ●

や べ みつ お
矢 部 三 雄
(栃木県)



- 55・4 農林水産省入省
- 17・8 九州局総務部長
- 18・4 林野庁治山課長
- 20・7 林野庁計画課長

● 東北森林管理局次長 (青森事務所長) ●

いの うえ たつ や
井 上 達 也
(埼玉県)



- 55・4 農林水産省入省
- 17・8 東北局森林整備部長
- 18・8 林野庁職員・厚生課長
- 20・7 (独)勤労者退職金共済機構審議役

● 庄内森林管理署長 ●

かしわ ぎ はる み
柏 木 治 美
(熊本県)



- 48・4 大阪局日原署採用
- 16・4 林野庁業務課課長補佐
- 17・10 中国四国地方環境事務所野生生物課長
- 20・4 関東局伊豆署長

● 最上支署長 ●

すぎ さき ひろ し
杉 崎 浩 史
(東京都)



- 10・4 農林水産省入省
- 14・4 林野庁整備課造林間伐対策室企画係長
- 18・5 外務事務官
(在シアトル日本国総領事館)
- 21・4 林野庁研究・保全課保険管理官

10年後の森林を 思いながら

岩手南部森林管理署遠野支署
宮守森林事務所

梅原 晃



私が勤務する宮守森林事務所は遠野市宮守町の一部と花巻市東和町の一部を管轄しており、管轄面積は4,994ha、スギ、アカマツ、カラマツの若齢人工林が多く、今後保育間伐が主となる造林地で構成されています。22年度の事業は、昨年度の冬山造林事業の続き、保育間伐から始まりました。基職2名、臨時7名の計9名体制でスタート、4月下旬から連休にかけて林道が通行できるようになって収穫調査、造林条件調査と進んでいます。



間伐前のアカマツ人工林

50歳で森林官となって8年、調査で森林に入りいろいろ考えるときがあります。たとえば間伐の伐採率。通常の間伐であれば、伐採率の上限が本数40%、材積35%でよいとして

も、保育間伐はその数字にこだわらなくてもいいのではないかと。10年後に間伐する時の森林を思い浮かべると、本数で60%あるいは材積で20%にしたほうが良いのではないと思われる小班も多くあります。特にアカマツは雪害の恐れがあるので35%なんて切れないなど。監督用務で請負現場に行くと「ここはどのように切ればいいのか？」よく聞か



間伐後のスギ人工林

れます。見れば目的樹種の中に広葉樹が入り込んでいる。「ここはスギにがんばってもらいたいので雑木は退治」広葉樹はスギの役目が済んだ後にがんばってもらったら良いなどと考える。広葉樹が優等生になっている今日、針葉樹を応援したくなる。地拵え、植え付け、

下刈りと手をかけてきたせいか、営林署時代の人間かもしれない。いま作業している森林が10年後の間伐期を迎えたときどんな姿をしているのか。さらに10年後…。作業する者、指示する者、迷う森林ばかりです。

収穫調査、条件調査もほぼ終了したと思ったら、田瀬湖周辺の国有林内に松くい虫被害木を発見。調査に入ると10本以上もありました。宮守町は数年前までは周辺地域であったものの、最近被害木が出始めています。これから巡視と調査が欠かせなくなります。

さらにイヌワシの営巣地が当部内の国有林の近くにあるということで、採餌行動に関する調査のための列状間伐調査。山のとっぺんまでの往復はきつい作業となりそうです。

小学校が夏休みに入ると「森と湖に親しむ旬間」の時期に合わせ、東和町、宮守町の小学4年生を対象とした「田瀬ダム・森林探検隊」が実施されます。これは森林や湖そしてダムへの関心、理解を深めてもらうために、毎年、田瀬ダム管理所、電源開発東和電力所と当支署が共催して実施している行事で、田瀬ダム、発電所見学後の森林教室は、子供たち相手にいつも悪戦苦闘の連続です。

当森林事務所のある遠野市宮守町は、わさびの産地として有名で、根わさび、葉わさびのほか、加工品など、東北一の「わさびの里」ならではの特産品が豊富です。昨年、保育間伐の調査に行ったときに、スギ造林地一面にわさびが密生しており、さすがわさびの産地だなと感じたことがありました。暑い夏が来ます。かつおの刺身に根わさびを摺ってワサビビールで疲れを癒し、明日はイヌワシ餌場の列状間伐調査だ。



田瀬ダム・森林探検隊での森林教室

我が署の隠れた名所

仙台森林管理署

南蔵王

「水芭蕉の森・

どうだんの森」



蔵王国定公園内にある白石蔵王自然観察教育林の広大なハンノキの湿地に、白い妖精のように点々と花咲く水芭蕉、やや離れた場所にあるサラサドウダンの群生は県内屈指の景観を見せてくれます。

水芭蕉の森は、4月～5月の雪解け直後が見頃で、整備された木道を進むと5万株ともいわれる水芭蕉の白い大群生を見ることが出来ます。

水芭蕉の森を越え、遊歩道をさらに奥へ進むとサラサドウダンの群生地があり、5月～6月にかけて、一面に広がる淡紅色の可憐な花を訪れる人を楽しませてくれます。

その後も周辺一帯は、コバギボウシ、エゾシロネ、ダキバヒメアザミ、アケボノソウ等の山野草が咲き続け、9月下旬のエゾリンドウで花の季節は終焉を迎えますが、秋には紅葉スポットとしても楽しめます。



水芭蕉・どうだんの森

交通
アクセス

白石ICから白石市内に向かい、国道457号線を車で約30分。南蔵王野営場手前を右に曲がり、約3分ほどで駐車場に到着。

お問い合わせ先

〒981-0908 宮城県仙台市青葉区東照宮 1-15-1
 電話番号:022-273-1111 FAX:022-273-1115